

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 24 日現在

機関番号：24302

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370401

研究課題名(和文)元・明・清における演劇と白話小説の関係に関する研究

研究課題名(英文)The Study on the Relation of the Drama and the Novel in Colloquial in Yuan Ming Qing Dynasty

研究代表者

小松 謙 (KOMATSU, Ken)

京都府立大学・文学部・教授

研究者番号：00195843

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：演劇と白話小説の関係を中心に、中国白話文学の研究を進め、共著書(解説と訳注の全文を執筆)『元刊雜劇の研究三 范張鷲黍』を刊行、更に元代における曲の創作・受容の実態と、さまざまな歴史小説と演劇の関係、戯曲・小説と出版の関係について研究を進めて、合計5本の論文を発表し、それらの論文と過去の研究を合わせた上で大幅な加筆修正を加えて著書『中国白話文学研究』にまとめ、2016年に出版する予定である。また、『水滸伝』各種版本の全文の校勘を進め、次年度以降の研究の基礎を構築するとともに、その成果をもとに、文学研究の方法論確立のため、校勘作業を文学研究の手法として位置づける発表を行った。

研究成果の概要(英文)：Mainly on the relations of the drama and the novel in colloquial Chinese, I pushed forward a study of the Chinese literature in colloquial Chinese, and published the cobook (I write a commentary and the whole sentence of the translation with notes) "The Study on the Yuazaju 3 FanZhang jishu ". Then pushed forward the study about the actual situation of the creation and the reception of the "qu" in Yuan dynasty, the relations of the various historical novels and the drama, and the relations of the publication and the drama, novel. I announced five articles in total, and I compiled the past article and did large correction, I am going to publish the book "The Study of the Chinese Colloquial Literature" in 2016. In addition, I did the text comparison of the various texts of the "Shuihuzhuan" whole sentence and built the basics of study after the next fiscal year.

研究分野：中国文学

キーワード：小説 演劇 白話 出版 水滸伝 元曲 三国志演義

1. 研究開始当初の背景

中国の白話小説については、日中両国、更には欧米においても、「四大奇書」を中心に多くの研究がなされている。一方、演劇に関しては、日本では元雑劇に関する研究はかなりのもの、全体的に見ればそれほど豊富な蓄積があるとはいえないが、中国においては多くの専門学術誌が刊行され、多数の研究業績が発表されている。しかし、両者の関係についての研究となると、たとえば『水滸伝』といわゆる「水滸雑劇」の比較といった個別の事項に関する研究は存在するものの、全体像を見渡す形で体系的に研究した例はないように思われる。基本的に小説研究と演劇研究は専門分化しており、小説研究者は小説のみ、演劇研究者は演劇のみを研究して、専門領域以外のジャンルは参考程度にしか目を通さない傾向がある。特に演劇研究にはさまざまな専門知識が要求されるため、こうした傾向は特に小説研究者の間で顕著に認められるようである。

しかし、演劇と白話小説は区別して研究すべきものではない。白話小説は芸能に由来を持ち、演劇は芸能の一種であるという点で、共通の場から出ている以上、両者は元来不可分の関係にある。更に、文字テキストの段階に入ると、そもそも当時の読者が小説のテキストと、演劇作品の文字化である戯曲のテキストとを、別ジャンルのものと認識していたか自体が疑問であり、また印刷物として小説・戯曲が流通し、入手が容易になると、それぞれにおいて作品の創作や改編が行われる際に、同じ題材を扱う他の作品を素材や参考にするという事態が発生してくる。当然両者の間には、密接かつ深い影響関係が存在したはずである。当時の読者は戯曲と小説のテキストをどのように受容したのか、両

者はどのようなパターンで影響を与えあったのかといった諸点は、演劇や小説の本質に関する問題といってよい。演劇と白話小説の関係について全体的な考察を加えることは、実は白話文学研究において不可欠の課題なのである。

研究代表者は『中国古典演劇研究』『中国歴史小説研究』(ともに汲古書院2001)、その後2009~2011年に給付を受けた科学研究費補助金(基盤研究C)課題番号21520381「『四大奇書』の研究」と、その成果として刊行した『『四大奇書』の研究』(汲古書院2010)を初めとする一連の研究において小説・演劇の両面から研究を進めてきた。また、2010~2014年に研究分担者として参加した科学研究費補助金・特別推進研究課題番号20001001「清朝宮廷演劇の研究」の研究においても同様の問題意識を持って、清朝宮廷演劇と『平妖伝』『三国志演義』の関係について研究を進めてきた。

今回の研究は、こうした過去の業績における『三国志演義』『水滸伝』に関わる研究をより一層深化させるとともに、その他の白話小説と演劇、更には明清の出版や知識人社会に関する研究と結合させて、総合的な研究を進めるものである。

2. 研究の目的

本研究は、元・明・清、つまり十三世紀から十九世紀の中国における演劇と白話小説について、両者の関わりを中心に考察を加え、共通した題材を取り上げる演劇と小説が相互に影響しながら展開していく過程を明らかにしようとするものである。この過程において題材となった物語は変容していくが、一般の中国の人々の間ではその姿を変えた物語が共通の常識として定着し、更には日本を含む周辺諸国にまで影響を及ぼしていくことになる。本研究においては、演劇と白話小説に詳細な分析を加え、物語の形成過程を解明するとともに、受容者層やテキス

トを刊行した出版社等についても考察を加えることにより、当時の社会における演劇・白話小説の位置づけを行い、あわせて演劇・白話小説を通して当時の社会の姿を浮き彫りにすることをも目指す。

3. 研究の方法

元・明・清に成立した演劇台本（戯曲刊本と上演用台本）と長篇白話小説のテキストを可能な限り収集し、精密な比較検討を加え、両者の関係を明らかにすることにより、演劇の発展過程や白話小説の成立過程、更には題材となった物語の変容の過程を解明する。あわせて、できるだけ多くの演劇テキストを調査し、内容を比較検討することにより、演劇における類型の存在や継承関係を明らかにし、説唱などの芸能をも視野に入れつつ、それらが小説に与えた影響をも考察することにより、白話文学の全体像を構築することを目指す。更に、刊行されたテキストの出版者や読者層、演劇の上演者や観客について考察を進めることにより、当時の社会の姿を多面的に把握することを目指す。

4. 研究成果

(1) 一年目の2013年度には、計画通り『三国志演義』『水滸伝』の成立過程及び演劇作品との関わりに関する研究を進め、『三国志演義』については、異なる科研費の成果という形を取って刊行されたものではあるが、磯部彰『清朝宮廷演劇文化の研究』（勉誠出版）のうち二章においてこの問題を論じ、『水滸伝』については、主要な三つの版本を対象に校勘作業を開始した。また、予定を前倒しして、本来次年度に進める予定であった隋唐物語と演劇の関係に関する研究を進め、『隋史遺文』

『隋唐演義』『説唐全伝』と、明末清初の劇作家李玉の作と言われる戯曲『麒麟閣』の関係について論じ、従来の説を否定して、現存する『麒麟閣』は李玉の作品をもとに、複数の演劇作品をつなぎ合わせて制作されたものであることを明らかにする論文「『麒麟閣』について 隋唐物語と演劇」を『日本中国学会報』第65集に発表した。

(2) 戯曲刊本についても研究を進め、次年度の刊行に向けて、元代に刊行された雑劇「范張鶏黍」の詳細な訳注を、参加している京都大学人文科学研究所の研究班「元刊雑劇の研究」の成果を踏まえて作成し、あわせて解説を執筆した。また、明代戯曲刊本の挿絵についても研究を進め、挿絵の様式は出版社が想定する顧客層に合わせて決定されるものであり、白話文学の評価の上昇に伴って、高級知識人が読者に参入する動きと連動して、多くの稚拙な挿絵を文中に挿入するというパターンから、レベルの高い少数の挿絵を巻頭におくというパターンに移行する傾向が認められることを明らかにする論文「明代戯曲刊本の挿絵について」を『中国古典文学と挿画文化』に発表した。

(3) 二年目の2014年度には、一年目にまとめた共著書『元刊雑劇の研究三 范張鶏黍』を刊行した。同書は9名による共著ではあるが、解説と訳注（本文のすべて）は研究代表者が単独で執筆したものである。同書の解説は、作品成立の社会的背景を明らかにして、「范張鶏黍」雑劇を作者が作品に自己を投影した初めての近代的戯曲として再評価した。またこの雑劇は『清平山堂話本』所収の小説「死生交范張鶏黍」、更にはこれを翻案した上田秋成『雨月物語』『菊花の契』とも深い関係を持つものであり、解説においてこれらの作品との関係について論じた点は、「演劇と白話小説の関係」という本研究の課題に直結するものである。解説のみならず、訳注部分も、単な

る注釈作業ではなく、徹底した用例の検索により、本劇で使用されている用語が当時の行政・法律文書でどのように用いられていたかを明らかにすることにより、同作品がいかにか当時の社会の問題を反映しているかを実証的に論じるなど、個々の注釈が論文にも匹敵しうる内容を持つ。

(4) 同年には更に、元代における曲の制作・受容の状況を新たな視点で見直すため、元代の散曲(うたとして唱われる曲作品)の全作品について、作者・題名・内容・特徴・妓楼や隠遁との関わりについて調査を行い、一覧表を制作した上で、論文「元代散曲考」を執筆して『和漢語文研究』第12号に掲載した。同論文は、一部の作品のみが重視される傾向にあった散曲について、その全体像をとらえ直し、南宋滅亡以前と以後とで生じた変化とその原因を論じ、雑劇との関わりにまで説き及んだものである。

(5) 前項で述べた論文と並行して、同年には更に論文「元雑劇を生んだもの散曲との関わりを中心に」を『京都府立大学学術報告 人文』第66号に掲載した。同論文は、妓女との関わりという視点から元雑劇の性格を根本的に問い直すとともに、元代社会が白話文学の発展上どのような役割を果たしたかについて、新たな視点から見直したものである。

(6) また、9月13日には、龍谷大学で開催された三国志学会京都大会におけるシンポジウム「『三国志演義』とは何か」において、「『三国志演義』はいつ、どこで、どのように成立したのか」と題して報告を行った。同報告は、先にふれた元曲に関する研究を踏まえ、『三国志演義』の成立事情について、元代に進行した社会的変化と南北文化の融合を踏まえた上

で、全く新しい観点を提示したものである。

(7) 三年目の2015年度には、演劇と白話小説の研究の一環として、楊家将物語を題材とする演劇の性格を論じ、あわせて小説の係に説き及ぶ論文「元・明演劇における楊家将物語」を『楊家将演義読本』(勉誠出版)に発表した。

(8) 同年には更に、「四大奇書」の一つである『水滸伝』の本文校勘作業を進めた。これに合わせて、そこから得られた経験に基づいて、文学研究における科学的研究としての方法論確立の第一歩として、白話文学における本文校勘が文学研究においてどのような意義を持つかについて整理を加えた。具体的には、校勘作業の方法を明快に論じるとともに、校勘作業からどのようにして、どのような書誌学的・文学的・語学的成果が得られるかを分類して論じる内容にまとめ、これももともと8月27日に開催された中国古典小説研究会大会において「『水滸伝』版本研究序説」、12月5日に開催された中国古典小説研究会関東例会において「白話文学における校勘の意味 白話文学研究における方法論確立の試み」と題して発表を行った。

(9) 今回助成を受けた3年間の研究の総決算として、著書『中国白話文学研究』をまとめた。同書は、第一部「元曲について」、第二部「『三国志演義』『水滸伝』と戯曲」、第三部「明清期における戯曲と小説」の3部13章からなり、本研究期間中の業績と、関連する過去の業績のほか、更に全体の五分の一程度を占める第一部第一章「元代に何が起こったか」を全く新たに書き下ろすなど、大幅な加筆を行い、全面的に修正を加えたものである。内容的には、本研究の趣旨に従い、元・明・清、つまり十三世紀から十九世紀の中国における演劇と白話小説について、共通した題材を取り上げる演劇と小説が、相互に

影響しながら展開していく過程を跡づけることにより、物語の形成過程を解明するとともに、テキストの刊行状況や受容者層の実態を明らかにすることにより、「読書」という行為がどのようにして生まれ、展開したかを描き出そうとするものである。同書は、日本学術振興会研究成果公開促進費に応募し、採択されて、平成28年度中に汲古書院より刊行される予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

小松謙、「元雑劇を生んだもの 散曲との関わりを中心に」、『京都府立大学学術報告 人文』、査読無、66、2014、P19~33

小松謙、「元代散曲考」、『和漢語文研究』、査読有、12、2014、P184~208

小松謙、「『麒麟閣』について 隋唐物語と演劇」、『日本中国学会報』、査読有、65、2013、P135~154

[学会発表](計3件)

小松謙、「白話文学における校勘の意味 白話文学研究における方法論確立の試み」、中国古典小説研究会関東例会、2015年12月5日、早稲田大学(東京都新宿区)

小松謙、「『水滸伝』版本研究序説」、中国古典小説研究会大会、2015年8月27日、鞆シーサイドホテル(広島県福山市)

小松謙、「『三国志演義』はいつ、どこで、どのように成立したのか」、三国志学会京都大会、2013年9月13日、龍谷大学(京都府京都市)

[図書](計4件)

小松謙、汲古書院、『中国白話文学研究』、2016、320ページ(予定)

岡崎由美・松浦智子・小松謙、勉誠出版、『楊家将演義読本』、2015、P106~116

赤松紀彦・金文京・小松謙・佐藤晴彦・高橋繁樹・高橋文治・竹内誠・土屋育子・松浦恆雄、汲古書院、『元刊雑劇の研究 范張鶏黍』、2014、214ページ

瀧本弘之・大塚秀高・小松謙、勉誠出版、『中国古典文学と挿画文化』、2014、P115~134

[産業財産権]
出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]
ホームページ等
無し

6. 研究組織

(1)研究代表者

小松 謙 (KOMATSU Ken)
京都府立大学・文学部・教授
研究者番号：00195843

(2)研究分担者

無し

研究者番号：

(3)連携研究者

無し

研究者番号：